

まだ見ぬ景色をつくる。開発ストーリー

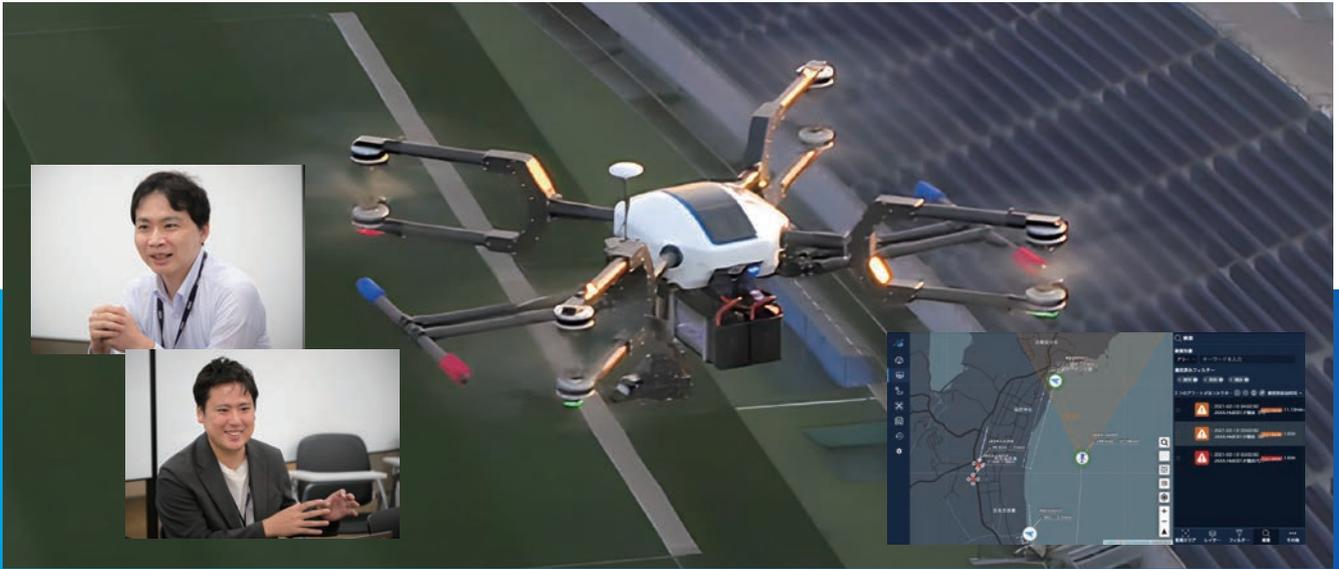
協力

NEDO 国立研究開発法人
新エネルギー・産業技術総合開発機構

第7回

拓く ひらく ひとびと

NEDO(国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構)では、「エネルギー・地球環境問題の解決」と「産業技術力の強化」をミッションに、産学官一体となって技術開発・実証に取り組んでいます。こうしたプロジェクトの成果は、市場に届く製品の多くで活用されていますが、製品化されるまでは参画企業の弛まぬ努力があります。



ドローンが飛び交う社会に！ 「複数台ドローン運航管理システム」

開発企業

KDDI株式会社

物流、点検・警備等の市場において、無人航空機の活用による省人化のニーズが高まっています。

これを受けNEDOは2017年度に「ロボット・ドローンが活躍する省エネルギー社会の実現」プロジェクトを開始。以前よりドローンの可能性に注目し、独自に遠隔自律飛行等の研究を行ってきたKDDI株式会社は、同プロジェクトに参画。18年にドローン運航管理システムの開発、20年には国内初商用配送を実現し、プロジェクト最終段階では、複数機の同時運航管理実証実験を成功。そして、現在でもNEDOとともにドローンの社会実装に取り組んでいます。

KDDIは、16年頃からコネクテッドデバイスとしてドローンの研究を開始し、モバイル通信網を上空で利用するための「実用化試験局制度(総務省)」を活用、17年に日本で初めてモバイル通信による完全自律飛行に成功し、目視外飛行への道を切り拓きました。

特定の空域で複数のドローンを安全に飛行させるには、ドローンがネットワークに接続されるだけでは不十分で、運航管理システムの重要性を認識したKDDIは17年よりこの開発に着手、さまざまな実証実験を行いました。

KDDIが実現を目指すのは「スマートドローンプラットフォーム」。4G LTEネットワークに接続されたドローン、3次元地図、運航管理システム、クラウドサービスから構成されるトータルソ

リューションで、農業、測量、検査、配送などさまざまなサービス実現を目指しているもの。4G LTE運航管理システム構築は、その一里塚と言えます。

17年からの5年間は、KDDIの事業化にとって特に大きな変革を迎えた時期でした。

KDDIは運航管理システムの構築を実現するためには独自開発した成果だけでは不十分という考えで、他業界のプレーヤーとともにNEDOが推進する大型プロジェクト「ロボット・ドローンが活躍する省エネルギー社会の実現プロジェクト」(DRESSプロジェクト)に参画することになったのです。



動画



記事のつづき

「新たな景色」へのつづきはここから。閲覧はスマートフォンで。